

平成28年度 自己評価及び学校関係者評価書

平成29年(2017年)3月1日

札幌市立発寒小学校

1 めざす学校

- ・心豊かに学び合い 笑顔と活力に満ちた学校

2 重点目標

- ・進んで取り組み、心豊かに学び合う子どもの育成

「は」は一と あたたく 【思いやる心】

「つ」つよく たくましく 【生き抜く力】

「さ」さらに みがこう 【進取の精神】

「む」むつむ なかまたち 【自立と共生】

未来を拓く 発寒の子

3 本年度の経営方針

「守る教育・攻める教育 発寒100年を目指して」

- ・チーム学校・オール発寒で取り組む学校教育
- ・学年経営、学年研修の強化
- ・PTA、地域との連携強化

- ・今日的課題の改善
- ・学校評価-職員面談-学校説明の充実

3 自己評価・結果

分野		評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
指導の充実	教育課程	・本校児童に合った教育課程の編成・実施・評価・改善をすることができたか。	A	・学校経営の重点から具体的な子どもの姿を想定し、共通の観点から児童、保護者、教職員の自己評価を行った。成果を子どもに返し、課題を次の教育活動につなげるサイクルを次年度も続けていく。 行事や地域交流サタデースクールで地域の財産を生かしながら共生を大切にする心を育てる活動を位置付けていく。	A	A
	授業	・子ども自らが学ぶ授業の改善と、一人一人を生かす指導の充実をすることができたか。	B	・授業協力者を招いた授業研究を通して授業改善の実践と話し合いを重ねた。学びあう子どもを目指し実践発表会で検証する。 ・総合的な学習や道徳、また、サタデースクール等で学んだ地域素材や環境などを整理し、6年間を見通した教育課程の策定に努めていく。	A	A
	特別支援教育	・特別支援学級との交流・共同学習や課題のある児童への配慮がなされたか。	A	・交流授業や交流給食で子どもたちは互いを思いやる優しい気持ちを育てた。支援級の授業研究を全校で進め、さらなる支援教育の充実を図っていく。 ・障がい者差別禁止法実施に向けてさらなる教育活動を準備していく。	A	A
学校評価委員による意見		・児童、保護者、教員の自己評価をもとに教育課程を改善していく方策はとても良い。自己評価の基準を明確にするなど更に評価を工夫し、教育活動を高めてほしい。また、改善の方向からは外部の力を生かすところにシフトされているような感じを受ける。学校全体の内部努力についても記述する必要がある。				
豊かな心 ◇健やかな体	人間関係づくり	・学年共同担任の意識を大切にしながら学年・学級経営の充実を図り、子どもの良好な人間関係をつくることができたか。	B	・学級の人間関係を確立する「Q-U検査」を実施して2年目。児童の実態を深く理解し、教育活動にあたって前より後期、昨年度より今年度と児童の満足度に向上が見られた。引き続き実施し学習生活の向上を図る。 ・学年経営委員会の学年間交流や、学びの支援委員会での困り感のある子の交流、研修を進めた。さらに日常的な交流を大切にしていく。	A	B
	豊かな心	・道徳の学習や体験・活動を通して豊かな心と主体性を育てる教育活動の推進をすることができたか。	A	・校外学習や出前授業を積極的に行い社会の様子を学ぶことができた。今後も継続していく。 ・子どもたちの実態に即して道徳の学習を工夫し、それを公開する学級が多く見られている。実践的な道徳の学習に努めている。 ・いじめ防止基本方針を策定し、組織的にいじめや不登校をなくす取組を充実させた。複数の目で見守る体制に努めていく。	A	A
	健やかな体	・健康安全教育を推進し、健やかな身体を育成することができたか。	A	・食育・心と体の教育のほか、携帯安全教室を通して身の安全を守る学習などを進めている。薬物教室など喫緊の課題にも取り組んでいく。 ・交通安全についてPTAやスクールガード、地域と連携して取り組み、見守る体制を危険な通学路でよびかけを更に継続していく。	A	A
学校評価委員による意見		・人間関係を大切にしながら、豊かな心と健やかな体の育成に取り組んでいることが学校経営・学年経営、学級経営とそれぞれが共通認識して実践することで伝わってくる。評価内容や改善の方向により、具体的な子どもの姿での記述があると教育活動を支える関係機関により伝わるのではと思う。				
教育環境	環境	・学習に生きて働く環境づくりを進め、有効に活用することができたか。	A	・外部組織や学びのサポーターにより、体育や生活科で準備活用できるようになった。今後も継続していく。 ・各教科で使用する教材についても学年・教科間で相談し合い、100周年に向け更に学習環境の整備に努める。	A	A
	安心、安全	・緊急時等の指導の充実を図り、児童の身の安全を図ることができたか。	A	・西区合同で行った防災訓練では、自助と共助についても学び、発達段階に応じた避難の仕方や態度を身に付けてきている。今後も安全教育を強化していく。 保護者メール配信-保護者引取という流れが訓練でスムーズに実施された。今後も総合的に対応できるよう継続していく。	A	A
	地域との連携	・保護者・地域との連携や教育活動の展開を図ることができたか。	B	・保護者メールを定期的に配信し、さらに啓発を進めることで全家庭が登録している。この状態を維持継続していく。 ・サタデースクール等により地域とのつながりが密接になっているとはいえるが、参加者数や広がり課題をもつ。100周年を見据え、学校と保護者が一体となって地域に生きる学校像を明確にしていく。	A	A
学校評価委員による意見		・PDCAのサイクルで適切な評価であると考えている。地域との連携では、Bの達成状況であるが、本校の実態ではAと考えても良い。新たなプランを立てる際により高い目標を掲げていくとよりよいのではないだろうか。更に家庭、地域と連携を深め、子どもの育ちにつなげてほしい。校内環境では子どもの心に訴える動的な掲示もあるとよい。				

評価ABCDに関して

A：十分達成した

B：ほぼ達成した

C：あまり達成しているとはいえない

D：達成に不十分